神戸鹽務局

本局之部

但再製鹽

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

神戸鹽務局本局之部（但再製鹽）

再製鹽

製鹽場位置　神戸市東尻池村二百三十二番地屋敷ノ九

日本食鹽コークス株式會社

右會社ハ明治三十六年九月ノ創立ニシテ當時神戸市鍛冶屋町二十二番屋敷ニ事務所ヲ設ケ其後神戸市東尻池村現位置ニ移轉シ事業ヲ開始セリ會社ノ營業ハ骸炭製造ノ餘熱ヲ利用シ鹽ノ再製ヲ爲シ兩者ノ販賣ヲ目的トスルモノニシテ資本金參拾萬圓株主二十三名（十二月廿一日現在）ヨリナル株式組織ナリ現今新舊株ヲ併算シテ六千株アリ而シテ其ノ拂込總金額ハ拾壹萬貳千五百圓ナリトス

位置　神戸市ノ西南端ニアリテ運河ニ沿ヘル平坦ナル地盤ニ建設セラレ水運ノ利便アリ敷地總坪數參千九百五拾四坪內建坪貳百參拾貳坪五合ナリ其內譯左ノ如シ

會社事務所	貳拾六坪五合	原鹽倉庫	參百五拾五坪五合
原鹽溶解場	百八坪五合	再製工場	六百貳拾坪八合
再製鹽置場	參拾坪	再製鹽倉庫	百四拾參坪
燒鹽製造場	七拾貳坪	精製鹽仕揚場	百參拾坪
製品倉庫	四拾坪	荷造場	貳拾八坪
コークス製造場	四百貳拾坪貳合	コークス置場	貳拾四坪
機關室	貳拾七坪八合		

第一　製鹽方法　餘熱式製鹽法　骸炭製造ノ餘熱ヲ利用シ再製ヲ爲スモノニシテ明治三十五年特許ニ係ルモノナリ

第二　原料品　原料鹽ハ主トシテ臺灣鹽ヲ使用シタルモ三十八年中ハ安南鹽ノ輸入及賣渡ノ命令ヲ受ケ之ヲ原料トシテ再製シ猶原料欠乏ノ場合ハ內地鹽ヲ原料トセシコトアリ

第三　原料鹽溶解裝置　原料鹽ノ處理場ハ運河ニ接近シテ築造セラレタル梁行七間桁行十五間ノ建物ニシテ其ノ內部一方ニ約十七八石ヲ容ル丶酒造用桶拾貳個ヲ置キ其ノ前面ニ縱四間橫三間深七尺ノ貯溜池四個ヲ設ク而シテ桶ノ前面下部ニ各呑栓ヲ裝置シ內部ヨリ棕櫚ノ纖維ヲ充テ桶ノ底部ニハ厚サ約二尺ニ至ル迄荒砂ヲ充塡シ桶一個ニ凡ソ壹千斤ノ原料鹽

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

ヲ投入シ置キ桶滿量ニ至ル迄海水ヲ注加ス（海水ハ鐵管ニヨリテ汲上セラレ桶ノ後部ニ通セル木樋ニ來リ呑栓ノ開放ト共ニ一齊ニ流入ス）鹽ノ全ク溶解シ鹹度十六七度ニ至ルヲ程度トシ呑栓ヲ抜キ去リテ液ヲ貯溜池ニ流下セシムルノ裝置ニシテ濾液ハ豫メ此ノ地中ニ貯溜セラレ煎熬場ニ通セル竹樋ニ依リ隨時煎熬場ニ輸送セラル

原料鹽溶解ノ海水吸上裝置ハ機關ニヨルモノニシテ鐵管ハ溶解場後ノ運河ニ通ス海水ノ鹹度ハ普通一度乃至二度ナリトス

第四　鹹水輸送裝置　第三ノ裝置ニヨリ原料鹽ノ溶解セラレテ貯溜池ニ存在セル鹹水ハ鐵管ニヨリ汲上セラレ煎熬場外ニ設置セル「タンク」ニ入リ煎熬ニ要スル數量ヲ隨時竹樋ヲ通シテ溫釜ニ送致ス

第五　煎熬裝置　煎熬場ハ骸炭製造竈ノ後壁ト接續シ竈ハ地面ヨリ約二尺高ク煉瓦ヲ以テ築キ上部ニ方形三條ノ溝ヲ設ク溝ハ骸炭製造竈ノ後壁ヲ穿テル方形三個ノ焔穴ニ接續セシメ上ニ長方形（縱九尺横五尺深五寸）ノ鑄物製（厚五分余）鐵釜ヲ裝置シ各釜毎ニ更ニ一個ノ圓形（徑三尺四寸深二尺三寸）ノ溫釜ヲ附屬セシメ（別圖參照）骸炭製造ヲ妨ケサル程度ニ於テ其ノ余熱ヲ導キ煎熬スル裝置ニシテ「タンク」ノ鹹水ハ竹筒樋ヲ通シテ溫釜ニ來リ二三時間濃縮セシメテ之ヲ本釜ニ移シ順次煎熬結晶セシムルモノナリ

第六　一釜ノ鹹水量及煎熬時間　一釜一回ノ鹹水ハ約一石七斗ニ當リ此ノ再製鹽約百斤ナリトス而シテ一晝夜ノ煎熬釜數ハ鹹水ノ濃淡ト熱度ノ强弱ニ依リ差異アルハ勿論ナルモ鹹度十六七度ニシテ平均八釜乃至九釜ヲ煎熬シ得ヘク現今三十釜ヲ以テ一ヶ月平均六十萬斤ヲ製出シツヽアリ

第七　原料ト製品ノ割合　原料鹽百斤ニ對スル製品ノ割合ハ其使用スル原料鹽ノ種類ニ依リ差異アルヲ免レス三十八年中ニ於ケル原料鹽ハ臺灣鹽、安南鹽及内地鹽ヲ製造中區分ナク使用シ且ツ調査ノ都度常ニ原料鹽ノ全部使用濟ニ至ラサリシ爲メ正確ナル歩合ヲ知ルニ由ナカリシモ臺灣鹽及安南鹽ヲ原料トセハ原料鹽百斤ニ對シ再製鹽九十斤乃至九十五斤ヲ得ル見込ナリ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター